

みなさんは、お茶をいれた時に茶^{ちやばしら}柱が立ったことはありますか？茶柱が立つと「縁起^{えんぎ}がよい」と昔からいわれますね。

なぜ、茶柱が立つと縁起がよいのでしょうか？

茶柱はなかなか立ちません。茶柱が立つにはさまざまな条件が必要です。急須^{きゅうす}の形状やお湯の温度や注ぎ方^{そそ}など、お茶の煎れ方^いが特に関係しているようですが、茶柱となる茎^{くき}の太さやその乾燥具合も重要です。となりますと、そのお茶の生育状態^つや摘まれ^も揉まれてお茶になる過程、茎と葉とを分ける選別作業、輸送環境や保存状態など、さまざまな条件が関わっているということで、そのさまざまな条件が重なり合ってはじめて茶柱が立つのです。

昔から「縁起がよい」といわれるのは、この様な条件が揃^{そろ}うことはまれであり、滅多^{めった}に起こらないことだからなのでしょう。

「縁起」とは、もともとはお釈迦さまの教え、仏教の教えの基本となるもので、仮名をおくるとすれば「縁^よりて起^おこる」と読むことができます。さまざまに関わり合う条件のことを「縁^{えん}」といい、「縁起」は、関わり合い支え合いながら存在するということです。

人やもの、自然など、ありとあらゆるものはすべて関わり合っていて、その関わり合いの中でしか存在できないのです。つまり、自分自身が存在しているのは、自分以外のありとあらゆるものと関わり合い支え合っているからなのです。

私たちはさまざまな関わり合いの中で生きています。家族のつながりや学校・会社でのつながり、地域社会でのつながりなど、たくさんの人と関わり合いながら日々を過ごしています。

近年はその人と人とのつながりを、ともすると煩^{わずら}わしく感じ、関わり合わないようにすることが多くなってきてしまいました。

しかし、とてもつらく悲しい出来事であった前^{さき}の大震災での、人と人々が互いに助け合い支え合う姿は、人と人とのつながりの大切さ、支え合うことの大事さをあらためて感じさせてくれました。

このような時だからこそ、自分自身を支えているさまざまな縁の ^{とうと}尊 ^はさに思いを馳
せ、その縁の中でどのように生きていけばよいのか、考えていきたいものです。

- 終 -